

登録コード	F3B60220	開講年度	2026			
授業科目	機能機械学実験・実習				担当教員	河村 隆 他
英文授業名	Experimental Engineering and Machining II				副担当	若月 薫・渡辺 健太郎・KIM ICKS00
単位数	1	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・ 3 時限 金曜・ 4 時限	対象学生
講義室			授業形態	実習	遠隔授業科目	備考
信大コンピテンシー 非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】	
	2 2 Fカリ					
	【2022年度以前加付対象】ヒトと環境にやさしい機械を創造するための専門的知識と課題解決能力				各教員が個別に提供する機械ロボット学に関する実験・実習を学生自身の手で行うことで、機械ロボット学に関わる学問分野の実験・実習方法を習得する．	
	【2022年度以前加付対象】コミュニケーションおよび情報収集・発信能力				各実験・実習テーマごとに、予習、復習、レポート作成を行うことで、情報収集能力およびサイエンスライティング、アカデミックライティングの基礎を習得する．	
	【2022年度以前加付対象】課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できるデザイン力と実行力				各教員が個別に提供する実験実習課題に取り組むことで、問題解決能力を身につける．	
	2 4 Fカリ・機械設計・機械学コース、 2 3 Fカリ・機械設計・機械学コース					
	【2023年度以降加付対象】課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できる能力を有する				各教員が個別に提供する実験実習課題に取り組むことで、問題解決能力を身につける．	
(2)授業で学べる「テーマ」	キャリア					
(3)全学横断特別教育プログラム						
(4)授業の概要	最初に、実験の実施に関するガイダンスを行う． その後、各分野の実験テーマについて、それぞれ 2 週間に渡って実験を行い、実験結果をまとめ、考察を加えて、レポートを提出する． 実験項目としては、機械工学分野の重要な測定試験、プログラミング、電子工作、加工実習を含む．					
(5)授業計画	実験実習回数は14回（100分授業）とする． 1． 流体の熱物性の測定 2． 引張試験・曲げ試験 3． マイクロプロセッサのプログラミング 4． 基礎電子回路 5． 平面加工 6． 普通旋盤加工 グループ分け、日程については、実験第一週目のガイダンスで説明する．					
(6)成績評価の方法	講義の内容に関するレポートまたは小テストで評価する． レポートは次週の実験までに必ず提出すること． なお、全ての回への出席およびレポート提出を求める． 実験テキスト内に「課題」が課されている場合は、その課題も提出すること．					
(7)成績評価の基準	単位を取得するには、本実験・実習における全てのテーマにおいて評価基準「可」を超える必要がある．また、全体の構成や文章の質、レポートの体裁も考慮する． ＜評定については次の評価基準を基本としている＞ 秀： 授業の達成目標の水準から見て卓越している 優： 授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良： 授業の達成目標の水準よりやや上にある 可： 授業の達成目標の水準にある 不可（D）： 授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可（F）： 授業の達成目標の水準より下にある					
(8)事前事後学習の内容	予習をせずに実験を始めるのは全く意味がない．そこで本授業では、予め毎回の実験内容を予習し、その内容をまとめたものを予備レポートとして提出することになっている．各担当教員は、実験開始前にそのレポートをチェックした後に、実験授業を開始することになっている． また実験終了後は、各担当教員が定めた期限内にレポートを提出する．考察テーマを与えてある実験もあるが、基本的には実験結果をあらゆる角度から考察してレポートを完成させ、提出する．この際、座学で学んだ授業内容や、より進んだ当該分野の研究内容を調べてレポートを記述することになる． なお、この授業は45 時間の学修を必要とする内容です。従って、15 時間以上の時間外学習が必要となります。					
(9)履修上の注意	毎回の実験には必ず出席し、レポートを期限内に提出すること． 前述のように、予習を義務づけられているので、十分予習して臨むこと． 工場実習を含むので、各自が必要な保護具を着用し、安全第一で実習に取り組むこと．					
(10)質問、相談への対応	課題については担当教員が随時対応する． 全体のとりまとめは学科教務委員が対応する．					

(11)学生へのメッセージ	座学で学んだことを、実験によって応用し、確認することは、知識の修得において極めて重要である。またレポートを作成する過程において、いろいろな調査や考えをまとめる能力も身に付くので、積極的に授業に取り組んでほしい。
(12)その他	
【教科書】	ガイダンスの際に別途指示する。 実験テキストはeALpsにpdfファイルでアップロードする。
【参考書】	特に指定しないが、実験テーマごとに、担当教員から指示される場合があるので注意すること。